St. Luke's International University Repository

実践報告：聖路加国際大学第3年次学士編入制度―開始から半年間のプロセス―

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2018-06-27
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 下田, 佳奈, 川端, 愛, 齋藤, あや, 堀内, 成子
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/13149

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

短　報

実践報告：聖路加国際大学 3年次学士編入制度
―開始から半年間のプロセス―

下田　佳奈[1)]　川端　愛[1)]　齋藤　あや[1)]　堀内　成子[1)]

Practice Report：The Initial Semester of the Accelerated Bachelor of Science in Nursing Programs at St. Luke's International University

Kana SHIMODA[1)]　Ai KAWABATA[1)]　Aya SAITOH[1)]　Shigeko HORIUCHI[1)]

〔Abstract〕

In 2017, Japan's first Accelerated Bachelor of Science in Nursing（ABSN）programs began at St. Luke's International University in Tokyo. This is a two-year program for people who have already completed a non-nursing bachelor's degree. The non-conventional curriculum provides lectures and practical trainings that are integrated during short terms. Also, several faculty members are assigned specifically for supporting ABSN students. The full quota, 30 students, admitted in the first year have as their major characteristics 1) extremely high motivations to learn and achieve their own aims, and 2) high social skills, such as communication skills, and 3) critical thinking skills, such as observation, perspective and problem solving ability.

This short report summarized the contents, real situations and process of this initial semester of the ABSN program occurring from April to August in 2017, as well as the characteristics of students, and roles and works of the ABSN faculty.

〔Key words〕 accelerated bachelor of science in nursing programs, baccalaureate degree, nursing education, nursing students

〔要　旨〕

平成29年度より，聖路加国際大学は，看護学以外の学士号を取得した者を対象とした３年次学士編入制度を開始した。これは全国で初めての取り組みである。特別編成を用いたカリキュラムを実施しているため，講義・演習・実習が統合されているのが特徴であり，短期間での学習が可能となっている。また，そのようなカリキュラムを始動させるにあたって，専任の教員を配置しており，主に学士編入生の学修環境支援を担うことを目的とした業務を実施している。初年度は定員の30名が入学した。学習態度の特徴として，①学習意欲および目標達成への意欲が高いこと，②社会的スキル（コミュニケーション能力等）および③批判的思考（観察力，洞察力，課題解決能力）に長けていることが挙げられる。

本稿では，開始年度である平成29年度前期の５カ月間（４－８月）における授業内容，学修状況および環境，専任助教の業務および役割について，その実際と今後の課題について報告する。

〔キーワーズ〕 学士編入，大学教育，看護教育，看護学生

１）聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

受付　2017年10月12日　　受理　2017年11月20日

Ⅰ．はじめに

聖路加国際大学（以下，本学）は，平成29年度より看護学部３年次学士編入制度を開始した。本制度の対象者は看護学以外の学士号を取得した者であり，２年間のカリキュラムで看護師国家試験受験資格の取得を目指す。これは全国で初めての取り組みである。初年度は，30名が本プログラムに入学した。

看護師を短期間で養成するプログラムは，Accelerated Bachelor of Science in Nursing（ABSN）programs と呼ばれ，米国では1990年代から開始されており，20年以上の歴史がある。米国の高齢化による保健医療ニーズの増加とそれに伴う看護師不足を解消することを目的に開始したプログラムであったが，現在もその数は増加の一途を辿っている。また同時に受験者数も年々増加している。カリキュラムは，以前の大学での既習科目や一般教養履修を前提条件とし，11~18カ月間で修了するのが一般的である[1)]。

報告されている米国の ABSN 学生の特徴としては，１）アカデミアにおけるパフォーマンスが高い，２）学習意欲が高い，３）プログラムへのコミットメント能力が高い，４）モチベーションが高い，５）米国正看護師資格試験（NCLEX-RN）の合格率が学部生と比較し有意に高い，等の特性が挙げられる。さらに次のステップとして修士課程への進学率が高いことも特徴的である[1-3)]。また，「働く実体験」がある学生が多いことから社会性が豊かで臨床現場からの評価も高い[1) 4)]。多くの ABSN プログラム修了生は，成熟し，しっかりした臨床能力を備えており，飲み込みが早いという理由から，就職先の臨床現場からも称賛の声が聞かれている。優秀な学生を雇用するために臨床現場が大学と連携して学費の返済を行っている場合もある[1)]。

日本で初となる本プログラムにおいても，２年間という短期間のため，特別編成を用いたカリキュラムを実施している。そのため，講義・演習・実習が統合されているのが特徴であり，短期間での学習が可能となっている。また，そのようなカリキュラムを始動させるにあたって，専任の教員（教授１名〈兼務〉，助教３名）を配置しており，主に学士編入生の学修環境支援を担うことを目的とした業務を実施している。

本稿では，開始年度である平成29年度前期の５カ月間（４－８月）における授業内容，学修状況および環境，専任助教の業務および役割について，その実際と今後の課題について報告する。

Ⅱ．入学年度前期の学修の実際（平成29年度前期：4月～8月）

平成29年度前期における授業科目数は，計17科目（33単位）であり，すべて必修科目である（**表１**）。うち講義13科目，演習１科目，実習３科目となっているが，専門科目である看護技術学・基礎看護学の領域においては，統合①および統合②として基礎看護領域９科目を統合した授業を実施した。さらに，基礎科目のうち５科目は４年制に在籍する学部１・２年生との合同科目であった。

１．特別編成における講義・実習

基礎看護領域における統合①・②が，初年度前期の特徴的な授業科目である。**表１**の通り，従来であればそれぞれ別々の科目として実施されていた９科目を，統合①は３科目（７単位），統合②は６科目（10単位）をその内容と順序性を考慮し，混在させながら実施した。また，統合①②の集大成として，前期の最終週に看護展開論実習が９日間（２単位）実施された。

１）統合①

統合①は，形態機能学（３単位），ヘルスアセスメント方法論（２単位），形態機能学演習（２単位）の３科目が統合された科目である。人間の日常生活行動に焦点をあて，身体の構造と機能の学習を実施し，身体的・心理的・社会的アセスメントの方法を学ぶ科目となっている。従来の４年制でのカリキュラムにおいては，形態機能学を１年前期で学んだ後に，１年後期をかけてヘルスアセメント方法論，形態機能学演習を実施していた。しかし，統合①においては，上記３科目が独立して教授されるのではなく，横断的にインテグレートされたカリキュラム構成となっており，その学習内容はそれぞれの項目の順序性が保たれていた。また，３科目を通して同一事例を利用し，各学習内容の関連性も考慮されていた。

さらに，特徴的な学習方法としては模擬患者による演習が挙げられる。Paper patient 事例を基盤にし，模擬患者に対して，アセスメント技術を実践する演習である。回数を重ねるごとに，学生の実践的なアセスメント技術が飛躍的に向上し，また，模擬患者との対応を積み重ねることで，接遇やコミュニケーション技術も付随的に改善できていた。統合された内容を実習前に学習できる方法となっており，実際の実習でも即応用が可能となっていた。

２）統合②

統合②は，People-Centered Care Nursing（PCCN）論（３単位），看護展開論（２単位），基礎看護技術論Ⅰ（２単位），基礎看護技術論Ⅱ（１単位），コミュニケーション実習（１単位），基礎看護技術実習（１単位）の６科目が統合されている。統合②の最終週に，看護展開論実習

表１　平成29年度 前期授業科目一覧

授業形態	科目分類		科目名	講義区分	単位数
学士編入生のみ	専門科目（看護技術学・基礎看護学）	統合①	形態機能学	講義	3
			ヘルスアセスメント方法論	講義	2
			形態機能学演習	演習	2
		統合②	PCCN 論	講義	3
			看護展開論	講義	2
			基礎看護技術論Ⅰ	講義	2
			基礎看護技術論Ⅱ	講義	1
			コミュニケーション実習	実習	1
			基礎看護技術実習	実習	1
		看護展開論実習		実習	2
	基礎科目	生涯発達論Ⅰ		講義	2
		（生涯発達論Ⅱ）※		講義	（2）
学部１・２年生と合同授業		生化学		講義	2
		薬理学		講義	2
		病態生理学		講義	2
		疾病・治療各論		講義	3
		栄養学		講義	1

※通年科目である『生涯発達論Ⅱ』（全15回）のうち，８回分は前期に実施している

（２単位）を実施した。

統合①と違い，各科目に各シラバスがあり，授業内容が独立している。従来の４年制学部生に実施していた，各々の授業内容および順序性は最大限に活かしつつ，従来２年間かけて徐々に進行させる授業を４カ月間の中に授業コマ数を多く設け，短期集中型で対応した。また内容に関しては，授業の内容がそのまま演習・実習に直結するような工夫，および学びの共有が効果的に行えるような工夫を実施した。例えば，演習にて事例を使用する際は，学生が配置されている各病棟において特徴的な疾患の事例を，それぞれ該当する学生に割り当てた。また同一の事例を複数科目に渡って活用することで，系統的に学べるように配慮した。看護展開論実習では，各病棟別に行う日々のカンファレンスだけでなく，各病棟から１名ずつ学生が参加し，別の病棟で学んだ学生が１つのグループを形成することで，互いの実習経験を共有するカンファレンスも設けた。このように，学生同士で互いの学びを共有することを重視した方法を展開した。

２．学生の特徴

１）学生の特徴

30名の学生の平均年齢は30歳で，うち何らかの職業経験を持つ学生は23名（76.7%）である。医療保健関連の経験を持つ学生は極少数であり，文系の出身が多い。授業・演習および実習における学習態度の特徴として，①学習意欲および目標達成への意欲が高いこと，②社会的スキル（コミュニケーション能力等），および③批判的思考（観察力，洞察力，課題解決能力等）に長けていることが挙げられる。

第一の特徴として，総じて①学習意欲および目標達成への意欲が高い。基礎学力が高いことも相まって，短期間で各授業内容の学習目標を達成する能力が十分に備わっていたことが特徴的である。「きちんと理解したい，単位を落としたくない，試験に合格したい」という目標達成への意欲が高く，そのための道を探したいという気持ちが強い。自分で学ぶスキルを既に大卒ということで身につけているという特徴である。また，授業開始前には新たな学習項目について自ら予習を進めるなど，予習・復習を含んだ自己学習，授業外の課題への取り組み意欲も高く，授業内容からさらに学びを深める努力を怠らない姿勢が多く見受けられた。

さらに，②社会的スキル（コミュニケーション能力等）に長けていることが挙げられる。病棟実習においては，患者および医療スタッフと円滑にコミュニケーションをとることができ，自身の学生としての秩序を保った振る舞いを問題なく行える。また，③批判的思考（観察力，洞察力，課題解決能力等）も持ち合わせており，初めての病棟実習でも患者に対する直接的ケアだけに留まらず，看護師と他職種との協働や連携について観察・考察することができていた。そして，それらが患者にとってどう影響し得るかまで考え抜くことができる能力であった。それは，入学前までの就労や大学の場で培ってきた社会人としてのスキル，成熟した成人としてのスキルを持ち合わせているからだと考えられる。

上記のような学生の特徴に影響を及ぼしている要因として，特殊な学習環境が関わっているのではないかと考

えられる。従来の２年次編入学制度による編入生[*1]は，他の大多数の学生が高校卒業後すぐに大学入学しているという環境の中でともに学んでいた。それに対して，本プログラムでは30名のみで編成した授業が大半であり，同じような背景を持つ学生同士が適度な人数で学ぶ環境にあることから，それらが意見・情報交換を円滑にしていたと考えられる。つまり，各々がディスカッション能力に長け，意見の言語化，グループ討議を円滑に実施することができる特徴を持っていることに相まって，学士編入生だけのクラス編成のため，グループダイナミクスをうまく活用できていたと考えられる。そのような環境のために，限られた授業時間内においても，個人が直接学んだ内容に加えて学生間でお互いの学びを共有する方法を積極的に活用し，効率的な学びを学生自身が工夫していた。

２）学生からの声

平成29年度前期の授業科目がすべて終了した８月，学生に対してアンケート調査を実施した。その中からの学生の声を以下に挙げる。（なお，この質問紙調査は，「看護学というセカンドキャリア形成に関する教育・学習評価のコホート調査」のうち入学して半年後の自由記載データを引用した。倫理審査番号17-A011）

（１）学習期間について

本プログラム全体に対して，２年という期間に魅力を感じている学生が多くみられる。

「２年で卒業できる。早くキャリアが積める。集中して学習することができる。」

「２年間とう期間が励みになり，モチベーションが持続しやすい。」

（２）授業構成について

学士だけで構成される授業および専任教員についての魅力を語っている。

「学士だけで受ける授業が多いこと。」

「互いに一度大学を卒業しており，看護師を志している人ばかりなので，コミュニケーションがとりやすい。」

「連帯意識を持てる。戦友のような意識がある。」

「志の高い仲間がいる。」

「編入生担当の助教が３人もいるため何かあった時の心強さがある。」

さらに，統合された授業構成に対してもその実際への魅力が述べられている。

「基礎，実践と同時なので，座学が実技にこう生かされるのだと感じながら学べる。」

「カリキュラムの組み立てが勉強してすぐ実習なところがよい。」

（３）課題だと感じる点について

２年間という短期間に看護師国家試験受験資格が得られることが魅力であると回答する一方，その限られた時間内での学習に不安や疲労を覚えている学生が多い。

「進むスピードが早く，内容が頭に入っているのか分からないまま次に進んでいる。」

「２年という短い期間で４年学んだ学生との看護の差が心配。」

「カリキュラムがタイトであり，１～５限が全て同じ教科ということもあるので，そのような日は集中力を持続させることが難しい。」

「再実習ができないと聞いているので，実習中に絶対に体調を崩さないこと。」

入学して半年であるが，卒業後の進路のこともすでに学生の中では不安要素として挙がっている。

「就職ができるのか，就職活動をどのように進めるか，まだ見えない。」

「（２年間での学習が）病院からの理解がどの程度得られるのか。将来就職の時に２年しか学んでいないことが影響しないか不安。」

「就職先や自分の進路を決めるために活動時間がなさそう。」

３）実習先病院看護師からの声

平成29年度前期の最終週に，初めて数日間連続した実習を実施した（看護展開論実習７日間）。実習終了後，各病棟ナースマネージャー（師長），実習担当者，Clinical Nurse Educator（CNE）および実習担当教員が一堂に会し，実習全体を振り返る機会を持った。その際，初めて３年次編入生の実習を受け入れた病棟看護師から，以下のような率直な感想・意見が聞かれた。

本実習は従来の４年制のカリキュラムの場合，第２学年の後期に実施している。一方，３年次編入生は入学４カ月後の時期に実施した。そのことから，実習前は学習の定着度合いが懸念されていたが，実際には問題を感じなかった，という意見が多く聞かれていた。

「学士編入だと思って身構えていたが，取り越し苦労だった。４年制の２年生と差がなかったように思う。」

「学士編入だからという問題は特になかった。」

「積極的に質問してくれ，非常に教えやすいとスタッフも感じていた。指導が入っていきやすく，答えも返ってきやすいので指導しやすかった。」

「わずか３－４カ月の学びの後での実習とは思えなかった。４年制の２年生との差は感じなかった。」

「４年制の２年生と比較しても同じような実習，あるいはそれ以上に実施できていたように思う。」

[*1] 看護学以外の学士号を取得した者が第２年次に編入し，３年間のカリキュラムで看護師国家試験受験資格の取得を目指す制度。本学では1997年～2016年度の入学まで20年間継続した。

また３年次編入生の実習態度から学生の特徴を次のように述べている。

「真面目で，熱心に，積極的に取り組んでいた。」

「コミュニケーション能力が総じて高かった。患者さんとのコミュニケーションも問題なかった。」

「学部生によく見られる行動の一つである，所在なさげにステーションに立っている，というようなことはなかった。」

「学生からのスタッフへの声掛けもよかった。」

学生の実習への前向きな取り組み姿勢，積極性，真面目さ，成熟した態度，さらにコミュニケーションスキルに関しては特に高評価として述べている看護師が多かった。また，実習中に行われるカンファレンスについて，学生間のディスカッション能力を評価している意見が聞かれた。

「カンファレンスが想像以上にとても素晴らしかった。今までで最も良いカンファレンスだったと感じた。患者の大事なことについて，よく考えられていた。」

「カンファレンスでは，考えたこと，実施したこと，その発表がとても上手にできていた。指導の内容を取り入れて，自分の考えとして発表できていた。」

さらに，病棟スタッフや患者など，学生の実習態度が周囲にまで影響を及ぼしていたとの意見も聞かれた。

「学生への指導を通して，病棟スタッフも突き動かされている様子がみえた。“こんな風に看護問題を考えてきたけど，どうか？”という質問が，スタッフ自身の看護観などに影響している様子がみえた。」

「学生の関わりが患者自身へ良い影響があったということをスタッフも感じ取っていた。」

「患者さんに影響を与えるところまで看護を広げて考えられていた。」

３．専任教員の役割

本プログラム専任教員のうち，教授は全統括者としての役割を果たし，授業の遂行には主に助教の３名が携わっている。助教３名の役割は主に，２年間に渡るほぼ全ての科目において，１）授業・演習準備および補佐，演習指導，２）実習準備・病棟での実習指導，３）実習評価の一部を担当，４）科目担当教員・学生間の連絡を行う，ことである。専任教員が授業科目の単位認定は行わないが，各々の専門性に準じて授業の一部を受け持った。

Ⅲ．専任教員のその他の業務

１．就職・進学支援

本プログラムが２年と短期間であり，授業・実習と就職活動が並行する状態であることから，特別に就職・進学支援を実施している。

写真１　第１回「きらり☆キャリア・カフェ」の様子

従来の教育では，基盤となる授業・実習を一通り学習し，終盤に差し掛かる時期に就職先を検討することが可能であった。しかし，本プログラムではそれが困難である。そのため，本プログラムの学生に対して，以下のような支援を実施している。

１）「きらり☆キャリア・カフェ」（写真１）

２カ月に１回の頻度で卒業生の講演を開催することとした。第１回目は，前期科目終了後の平成29年８月に開催した。２年次編入生として学修した卒業生に，３年次編入生に向けて自身の選択した看護についての経緯や仕事について講演を行ってもらった。

２）その他の情報提供

博士前期課程（助産師・保健師コース）への進学，病院説明会やインターンシップ参加，就職先選択に関する助言を適宜実施している。それによって，就職先とのミスマッチを防ぎ，ライフワークバランス，体力，特性，個々の専門性に合わせた就職先の選択を可能とするよう支援している。

２年間という短い期間において，夏季休暇などを有効に使い病院説明会やインターンシップ，オープンキャンパス等に参加できるよう，看護師となる自分自身のキャリアを考える機会を早くから提供する必要がある。「きらり☆キャリア・カフェ」のような事業に関しては，次年度以降は大学学生部として企画に含めてもらうよう提案した。

２．広報活動

３年次学士編入制度が国内で初めて始動したことから，その実際を学外に向けて広報することを目的に，ソーシャル・ネットワーク・システム（SNS）を利用した広報活動を実施している。主に，Facebook と Twitter を連動させた方法を取り，学生の現在の学習状況をリアルタイムで伝えている。前期終了時の８月時点では，一回の記事に対し，平均約1,500程度の閲覧数を獲得している。

これらの広報活動の影響もあり，第２期生となる平成30年度入学への志願者が，第１期生の際の志願者数65名

から104名へと増加し，大卒者の看護学への関心の高さがうかがえた。

3．学生からの相談

本学においては，学生一人一人に教員が学習・学生生活を支援するためのアドバイザー制度を設けている。3年次学士編入制度では，専任教員の4名が3年次編入生のアドバイザー業務を兼任しており，学生の学習および生活支援を引き受けている。具体的には，授業や実習，試験に関する疑問や課題について，乳幼児の養育中である学生からの家庭での問題について，心身の体調面に関する不安についてなど，幅広くさまざまな相談を受けている。専任教員がアドバイザーを担っていることもあり，学生と教員間のアクセスが比較的容易であることが学生支援においての強みであると考える。

Ⅳ．3年次学士編入制度のこれから

次年度は2期生が入学するため，初めて2学年が同時に授業を進めていくことになる。そのため，プログラムを軌道に乗せることに加え，より効率的な講義・実習の運用が求められると同時に，各領域内における教員，3年次学士編入専任教員の役割と配置を再考していく必要がある。また，今年度の授業の進行具合を評価していくことが重要である。

すでに習得した専門分野に，看護学を加え統合していく作業は，「獲得と喪失」のプロセスであり，楽しくもあり苦痛でもある。身についた文化を離れ，看護学という異文化に身を投じることは様々な混乱をもたらすと考える。教授者側も，学習者の特性を理解したうえでの学習環境を整えることが必要である。

引用文献

1）American Association of Colleges of Nursing. Nursing Education Programs / Accelerated Programs. [2017-09-21]. http://www.aacnnursing.org/Nursing-Education-Programs/Accelerated-Programs.

2）El-Banna MM, et al. Motivated strategies for learning in accelerated second-degree nursing students. Nurse Educ. 2017；42(6)：308－312.

3）Brandt CL, et al. The faculty voice: Teaching in accelerated second baccalaureate degree nursing programs. J Nurs Educ. 2015；54(5)：241－247.

4）Whitcomb JJ, et al. Accelerated second degree programs. Dimens Crit Care Nurs. 2015；34(4)：187－188.